

広報
しゅうなん

周南

3

2012

1日号

No.213

周南ふるさと大志

●今回の折り込み(はすしてお読みください)
社協だより

東日本大震災から1年

平成23年3月11日14時46分、三陸沖を震源とする地震が発生し、未曾有の大災害に見舞われました。改めて、犠牲になられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興を願っています。今後とも、周南市はできる限りの復興支援を行っていきます。

今回の
表紙

だに
やげん谷一里塚

盛土された塚の周囲を石組で覆ったもので、小郡(山口市)と高森(岩国市)を結ぶ往還道の一里塚です。一里塚の多くは、幕末に取り除かれたり、近代の道路拡幅などで姿を消しており、貴重なものです。(中須地区、市指定史跡)

周南ふるさと大志

本市のまちづくりに対して、熱い志により応援していただく「周南ふるさと大志」に、今年度就任された5人の皆さんを紹介いたします。(50音順)

がんばる“ふるさと周南”応援サイト <http://www.city.shunan.lg.jp/section/kikaku/furusato/saitotop.jsp>

周南ふるさと大志とは

周南ふるさと大志とは、本市出身または本市に縁があり、経済、文化、教育、芸術、スポーツ、芸能、医療など、さまざまな分野で、全国を舞台に活躍されている人に、本市のイメージアップや魅力あるまちづくりを応援していただく制度です。

平成20年度からスタートしたこの制度は、今年度新たに就任された5人を加え、合計20人になります。

なぜ大使ではなく大志?

全国の多くの地方自治体では、主に観光PRや知名度アップを目的にした〇〇大使を置いています。

本市では、周南の発展を願う熱い志により、まちづくりへの助言や提言をいただくことも重要であると考えていることから、「大使」ではなく「大志」と命名しています。

周南ふるさと大志の活動は

周南ふるさと大志の皆さんには、市の知名度向上やPRのため、公私にわたる活動の中で、本市の情報を全国に発信していた

だいています。

例えば、これまで講演会の講師や市の特産品、ふるさと納税のPRなど、幅広く本市を紹介していただきました。

また、市の魅力がぎゅっと詰まった名刺も、配っていただいています。

さらに、大志の皆さんが持つ、専門的な観点や周南市の外からの視点で、まちづくりに対する助言や提言、有益な情報提供をお願いしています。

今後、まちづくりに対してさまざまな形で、大志の皆さんのお力添えをいただきます。

問合せ 企画課企画担当
0834-22-8478 FAX
034-22-8266 E-MAIL
aku@city.shunan.lg.jp



本市の発展を心から願う
周南ふるさと大志の皆さん

 宮本倫明さん 平成20年度	 北條慶子さん 平成21年度	 神足泰弘さん 平成22年度	 伊東敏恵さん 平成21年度	 飯田哲也さん 平成22年度
 山根多恵さん 平成21年度	 弘中百合子さん 平成22年度	 原田裕花さん 平成21年度	 菅原浩志さん 平成22年度	 河野通方さん 平成21年度
 福田靖さん 平成22年度	 寺尾明人さん 平成21年度	 白神誠一さん 平成22年度	 蒲田孝代さん 平成21年度	 市山尚三さん 平成22年度

商品開発企画・社社長
マーケティング
ブームプランニング
なかむらやすこ
中村泰子さん

はじめまして。私は徳山で生まれ、高校卒業まで元気にのびのびと過ごしました。

海と山、コンビナートと動物園の原風景、周南の風土や土地柄、一緒に過ごした人たちの影響を多分に受けて、私のベースができたと思います。

上海して33年。いろいろな出会いの中、女子高生たちと商品開発やブームを作る仕事に関わって4半世紀が過ぎました。

最近、帰省する機会が増え、愛する両親や友人たちと会うたびに、周南には都会と田舎の空気を上手に取り込むバランス感覚や、情緒豊かな感性と「ミスター魂を育む環境がある」と感じています。

周南の気質や人間力、ネットワークを知り、みんなの地元自慢やマイブームを集めた周南の魅力でブームが作れたらいいなと思います。

よろしくお願いたします。

産業技術総合研究所
副部門長兼グループ長
境 哲男さん

私は、大阪府池田市にある国の研究所で、電気自動車に搭載する新型電池の研究開発に取り組んでいます。

美しい山と清流に囲まれた鹿野で生まれ育ち、徳山高校を昭和47年に卒業して以来、40年が過ぎました。

若い頃は、大阪から東京、そして世界に出たくて仕方がなかったのですが、歳を経るに従い、ふるさとへの熱い思いが強くなるのを感じます。

周南市は、豊かな自然と歴史、日本屈指の産業、便利な交通網、海の幸と山の幸に恵まれ、人情味と情熱にあふれた人々の暮らす、世界でも有数のすばらしいまちだと思います。このようなふるさとが、心の支えとなり、新しいことに挑戦し、そして、失敗してもめげない精神を醸成してくれたのだと感謝しています。

ふるさとの発展に、微力ながら貢献できたらと考えています。

東京女子医科大学
教授
松田義雄さん

♪錦帯橋はうららかに秋吉台はさやかに♪で始まる「山口県民の歌」は、私が小学3年生の時に開催された山口国体の開会式で披露された歌と聞いています。

以前、石油化学コンビナートを中心として地域全体が右肩上がりに発展し、新幹線の徳山駅ができた頃には、人口当たりの飲食店数が全国で有数とか、当時の少年であった私にもできるまち自慢がありました。あれから半世紀近くたったのです。当時は、確かに日本の中でも先頭集団にあった周南が、今や一周遅れになつている部分もあると聞いて、少し寂しい気持ちは隠せません。

長い間、絆の原点でもある周産期医療、新しい生命を育む母と子のための医療に携わっており、故郷周南との絆がさまざまな形で実現できるような思っています。いつでも声をかけてください。

建築家・都市計画家
神奈川大学教授・神戸大学名誉教授
しげむら つとむ
重村 力さん

周南は少年時代に夢を育んでくれた私の大切なふるさとです。徳山湾の島々で泳ぎを覚え、周南の山々を歩き、山陽路を自転車で駆け巡って、いつも風景をスケッチしながら周南の景観に励まされてきました。

周南は今日までの日本の近代化を担ったまちであり、志の高い人々が住む地域社会があります。その環境と社会こそ周南の財産です。

私は、日本各地の地域振興や災害復興のまちづくりに関わってきました。

景観と文化に強い特徴と個性があり、人々が心の支えとなる強い磁力のような結びつきを共有している都市は、必ず発展します。

日本が岐路に立つ今、地域社会と環境に依拠した、着実な未来を地域で再構築するお手伝いができればと念じています。

知床財団
事務局長・統括研究員
やまなかまさみ
山中正実さん

世界自然遺産の知床半島を共有する斜里町・羅臼町が設立した知床財団に勤務しています。世界遺産登録によってわが国の責務となつた知床の原生自然を「知り、守り、伝える」をテーマに、自然環境の調査研究や保護管理、知床の自然の価値を普及することが私たちの仕事です。知床の豊かな自然は、観光や農業、漁業など知床の主要産業の源泉ですが、ヒグマやエゾシカなど、人の生活に被害を及ぼす動物たちを保護しながらも、危機管理を行っていく難しい対応も日常です。

私は、西松原で生まれ育ち、昭和53年に高校を卒業後、北の地にあこがれて北海道に渡って以来、はや34年。改めて周南市を見ると、工業都市である反面、瀬戸内の美しい海からクマの棲む中国山地の脊梁の森まで、多様な自然にも恵まれています。自然を生かした地域づくりや自然と折り合いをつける術などを提案できればと考えています。